平成２６年３月１０日（月）

八ヶ岳南麓里山再生・農業支援友の会

会員の皆様へ　　**《３月度農場便り》**

「大雪被害と自然栽培」

明治の気象観測が始まって以来の大雪でした。大泉では 130 ㎝を超える雪で 2 週間過ぎようとしているのに未だ 30 ㎝ほど残っております。ハウス周り、家周りの除雪が終わり漸く畑に手を付ける段階になりました。玉ねぎを寒風から護るためビニールトンネルを設置していますが秋に植え付けた玉ねぎはこの大雪で雪の下となり圧死の危機に瀕しています。一人では到底無理、スクールでの受講生の皆さんと除雪を予定しています。何とか生き残ってほしいものです。厳冬期の寒さと強風を押して高冷地での収穫をもくろむ強欲な人知も大自然の前では無残な徒労と帰すことが間々あります。小生のこの程度の被害は可愛いものです。果樹地帯の早出しのブドウ、桃、サクランボのハウス倒壊は比較にならない甚大な経済的、物質的、時間的損害を招いています。栽培現場、野菜売り場、飲食店、家庭の食卓から旬という季節感が全くと言っていい程無くなってしまった現在の食の在り方、経済的豊かさを求める我々の欲求が大きな社会的負担と化してしまいます。被害への国の補助金等一概に喜んでいられません。市場において高価格で取引される時期に誰よりも早く出荷したい、得る利益は増えるでしょうが化石燃料、ビニール製品を使用し結果的には高コスト、環境面からも高負担の栽培であることが分かっているけど止められない、原子力発電と行くつく先は同じですね。自然界との折り合いを如何につけるか、大変難しい課題ですね。グローバル化した経済偏重の流れは自然と共に生きることよりも自然を利用、克服しようと挑戦してきました。科学技術の進展と経済的豊かさへの欲求は地球規模を限りなく小さくしています。海は広く、深く。山は大きく、高く。遥か遠くの地平線から昇り、沈む太陽。我々の暮らす地球は大自然であって欲しいものです。結局のところ折り合いをつけるのは我々一人一人の中にその鍵は託されているのですね。今回の大雪で大泉の農場への 50ｍほどの侵入路が雪の為車の出入りが出来なくなりました。我が農場を含め４軒、２軒は８０歳代のおばあちゃん、老夫婦、１軒は空き家、５日目に前期高齢者の仲間入りした小生が除雪して漸く外部との通行が可能になりました。これが田舎の実態です。春はそこまで来ています。今まで以上に自然界に視点を置き、自然の力を頂く自然栽培の始まりです。

・育苗中のレタス（3／6）

・稲苗用の醗酵育苗土篩い掛け（3／3）

メール　yamaki.yoshio@peach.plala.or.jp　　携帯０８０－３０８０－３０１７